

価値を生み出す各セグメント

当グループは、日本、中国、その他のアジア地域、北米、南米、欧州を4つのセグメントに分けて事業を展開しています。顧客の多様化を図るとともに、あらゆる角度から効率性の向上や原価低減に努めることで、さらなる事業成長を図っています。

13カ国 44法人 14,719人



	日本	米州	中国	アジア・欧州
関連会社数	7	16	8	12
社員数(人)	2,294	8,166	2,344	1,915
二輪事業収益(百万円)*	4,637	304	—	3,151
四輪事業収益(百万円)*	51,557	230,891	85,254	43,509
(シート)	48,436	204,395	82,606	39,454
(内装品)	3,121	26,495	2,647	4,054
その他事業収益(百万円)*	14,144	8,186	—	76
合計(百万円)*	70,340	239,381	85,254	46,737
設備投資額(百万円)	6,370	5,082	667	1,443

※セグメント間取引については相殺消去し、外部顧客への売上収益を表示しています。

2024年3月末時点

日本 – 埼玉地区の生産再編 –

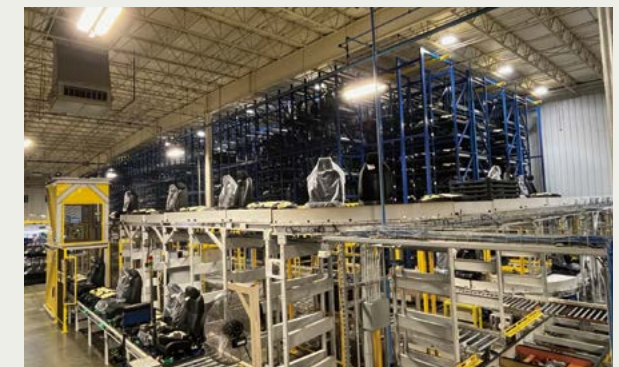
製造技術のさらなる進化と収益体質強化を目的として、高効率な生産体制を構築すべく、埼玉地区の再編に取り組んでいます。埼玉工場内に製造技術と量産性の実証実験を可能とする新たな技術棟を新設することで、生産領域での技術開発強化を目指します。そして、そこで生み出した製造技術をグループ拠点へと発信し、グローバルマザーとして一層の機能強化を図ります。



米州 – 環境変化に負けない収益体質の構築 –

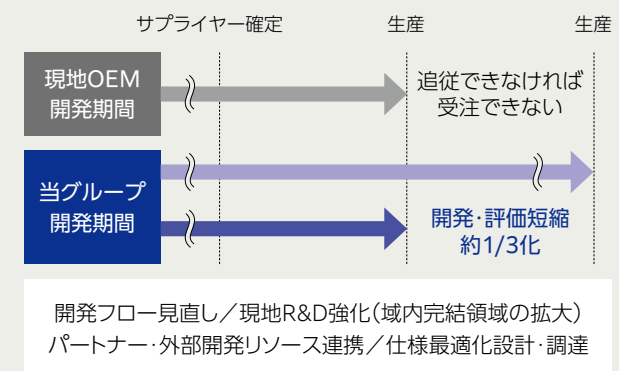
米州では、その市場の大きさからグループの売上収益を計上する一方、労務費や原材料価格の高騰など、さまざまな要因から収益性に課題を残しています。生産工程の自動化設備の導入や生産変動に柔軟な対応ができる立体自動倉庫システムなど、生産体質改善に向けた投資により、環境変化に負けない高収益体質へのV字回復を図ります。

立体自動倉庫



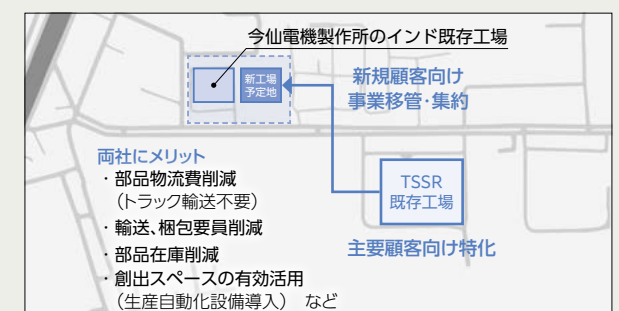
中国 – 利益率確保に向けた収益体質の改善 –

新興EVメーカーの勢力拡大により、かつてないほどの苦戦を強いられている中国では、当グループの収益性を支えるべく、新たな企業とのパートナーシップ構築による新規顧客・新商権の獲得に取り組み、競争が激化する中国市場での勝ち残りを目指しています。また、生産の自動化推進や要員の最適化、現地ローカルメーカーの活用などに取り組み、収益体質の改善を推進しています。



アジア・欧州 – インド新工場建設 –

マルチスズキ向け受注拡大に伴い、インドにおける生産体制の強化に取り組んでいます。株式会社今仙電機製作所*のインド工場敷地内に新工場を建設し、生産能力拡大を図るとともに、既存工場で創出されたスペースを有効活用し、コスト競争力強化を図ります。また、本格稼働を開始したポーランド拠点は、欧州顧客向けに価格競争力のある製品供給が可能な立地を活かし、より一層の拡販を目指します。



※当グループは2020年11月より、販路・商権の拡大、技術・研究開発の強化、コスト競争力の強化などを目的に、同社と資本業務提携を締結しています。